

[BRC Top](#)[お知らせ](#)[ご挨拶](#)[事業の概要](#)[技術研修](#)[組織図](#)[各室概要](#)[公開情報](#)[リソース検討委員会](#)[個人情報保護](#)[採用情報](#)[アクセス](#)[リソース検索](#)[利用方法](#)[提供申込み](#)[寄託申込み](#)[提供手数料](#)[支払方法](#)[総合カタログ](#)[利用者登録](#)[メールニュース](#)[関連リンク](#)[お問い合わせ先](#)

公開情報

マウス表現型知識化研究開発ユニット

榎屋 啓志 ユニットリーダー

1. 設定した目標の妥当性

1) BRCで実施する意義があるか

“世界最高水準のバイオリソースの整備”というセンターの目標に合致しているか？

標準化された情報基盤と表現型データベースの構築の二つともリソースの付加価値工場のために必要であり、それを利用するユーザーサイドからも切望される必須の計画であり、目標として適切である。なおデータベース開発の点においては、特にヒトの健康につながる視点を常に意識してほしい。

BRCの目標達成に貢献する“道筋”は明確か？

目標達成のための方法論として、表現型情報・実験手法のオントロジーの構築、さらに表現型データベースのためのセマンティックweb技術の確立は妥当である。国際的な連携を視野に入れながら、また活用法については戦略をもって進展させることを期待する。

2) 5年間で達成可能な目標か？

計画の主な点はすでに初期の段階をクリアーしているものもあり、その達成は問題ないであろう。ただヒト疾患情報マウス表現型情報の統合など、幅広い視野で目標を設定しその達成をめざして欲しい。

3) 国際的な視野に立った目標か？（国際的なリーダーシップにつながる目標か？）

すでに関連する国際コンソーシアムの中で活躍しており、今後の活動次第では国際的なイニシアチブを取れるのではないかと期待する。

2. 目標達成のための計画の妥当性

1) 目標達成に向けての具体的な計画であるのか？

すでに具体的に実験遺伝学オントロジー構築に着手しており、それを基盤として表現型データベース構築を実現することが可能であろう。ただユーザー側のニーズ調査が更に必要と思われる点もある。またオントロジーは将来ウェブの研究者などユーザーフレンドリーなフォーマットを望む。

2) センターとして優先度の高い、必須な計画か？

リソース関連情報の活用のために根幹となる研究開発であり、そのために必須の計画となっている。利便性についてより考慮されれば優先度は高くなる。

3) 独創性の高い計画か？（単なる後追いではないか？）

既存の表現型データベースからオントロジーを確立し、セマンティックwebを利用することで、一步抜きん出たデータベースになる可能性がある。さらなるニーズの精査を行えば独創性はさらに高くなり、社会的な要請に答えながら世界的をリードできる課題となろう。

4) 研究資源（予算・人員）範囲内で実現可能な計画か？

「実験遺伝学オントロジー」開発もすでに論文準備中とのことなので、全体の計画遂行も問題ないと思うが、研究資源が増加すればさらに充実するだろう。コストパフォーマンスの点から、一部について場合によってはアウトソーシングも考慮してはどうか。

5) 計画を実施するために必要な経験、実績を有しているか？

過去の発表論文や外国との連携状況から考えて、経験、実績について問題はない。

3. その他

実験遺伝学オントロジーが世界的なスタンダードになり、当該プロトコルを利用して得られる成果が他では得られないような新しい生物学的「意味」を抽出できる標準プロトコルとなることを期待する。加えて世界に遅れを取らない戦術性が重要であり、それを常に意識してほしい。

